

## 地域の話題 札幌市

路面電車ループ化で目指す、  
人が主役の魅力あるまちづくり

札幌市の路面電車は明治42(1909)年の馬車鉄道から始まり、地域の公共交通機関として利用されるとともに、まちのシンボルとして親しまれてきました。近年、この路面電車の活用に向けてさまざまな検討が重ねられ、平成27年12月20日に「西4丁目」と「すすきの」停留場間の約400mの路線をつなぎ、路線のループ化(環状化)が実現しました。この区間を電車が運行するのは、昭和49年に同区間が廃止されて以来42年ぶりのことです。本事業に関わった札幌市まちづくり政策局、交通局のお二人にお話をうかがいました。



札幌市まちづくり政策局総合交通計画部都市交通課  
路面電車活用担当課長 地崎 淳宏氏



札幌市まちづくり政策局総合交通計画部都市交通課 調整担当課長  
札幌市交通局高速電車部 調整担当課長(兼務) 玉田 孝文氏

## 新しい「札幌の顔」として

—— 線路のループ化の背景についてお聞かせください。

札幌市の路面電車は、長年市民の足としてまちの発展に大きく貢献してきましたが、昭和46年以降、地下鉄開業に伴って事業を縮小し、昭和49年に現在のループ化前と同じ路線を運行するようになりました。その後、沿線の集客施設の移転なども重なって利用の低迷が続いていましたが、一部業務の委託や人件費削減など経営の見直しを行い、事業を継続してきました。

一方で、札幌市では平成17年に市民の意向やまちづくりへの活用の可能性、環境面での影響などを踏まえ、路面電車を存続することを決定し、その活用の検討を進めていくことにしました。

その後、専門家を交えてさまざまな検討を進め、平成22年3月に「札幌市路面電車活用方針」を策定しました。この方針では経営基盤の強化とまちづくりへの活用を図るため、「路線を延伸すべき」と考え、延伸検討地域とし

て「都心地域」「創成川以東地域」「桑園地域」の3つを設定しました。さらに同年4月以降は、この方針についてフォーラムやパネル展等を開催するほか、市民会議を開いて市民の皆様から多くの意見をいただきました。

これらの結果を踏まえ、札幌市では「都心地域」で路線のループ化を実施する具体的な計画を取りまとめ、平成26年5月に工事に着手、平成27年12月の開業に結びつきました。

<事業経過の概要>

平成24年4月 12月	「札幌市路面電車活用計画」策定 軌道経営に関する決議 (第4回定例会市議会、経済委員会) 軌道運送高度化実施計画の大臣認定申請
平成25年4月 11月	軌道運送高度化実施計画の大臣認定 工事施行許可申請
平成26年5月	工事施行許可、工事着手
平成27年11月 12月	工事竣工(軌道)、運輸開始認可申請 運輸開始許可、開業記念式典(12/19)、 開業(12/20)

——事業の具体的な内容についてお教えください。

まずはまちのシンボルストリートであり、都心のにぎわいの軸である札幌駅前通での路線のループ化です。「西4丁目」と「すすきの」停留場間の約400mにわたる路線を結ぶことにより、路線沿線にある全ての施設に最短でアクセスできるようになり、回遊性、利便性が大きく向上しました。沿線や都心にアクセスしやすくなり、沿線住民の足となるだけでなく、観光客を含めた街歩きにも便利です。

このループ化に伴って、電車は「内回り(反時計回り)」と「外回り(時計回り)」の運行となりました。また、「狸小路」に新停留場を設置し、停留場は全24カ所になりました。

それから、利用者の利便性と路面電車のまちづくりへの活用という観点から、新たに整備する札幌駅前通ではサイドリザベーション方式を採用しました。従来の停留場では、利用者が電車の乗り降り前後に横断歩道を渡る必要がありましたが、サイドリザベーション方式では、歩道にある停留場から直接乗り降りできるようになりました。電車を待つときもせまい既存の停留場ではなく、歩道の広いスペースが利用でき、安全性、利便性が大きく向上しています。



「西4丁目」の新しい停留場(内回り)

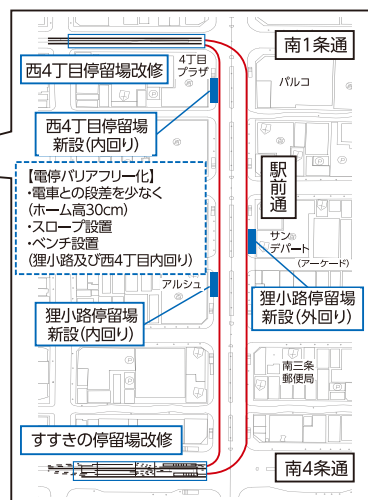
また、バリアフリーに配慮した「新型低床車両(愛称:ポラリス)」を3両導入しました。

新型車両の最大の特徴は、文字通り床の位置が低いことで、停留場との段差がほとんどなくなり、乗り降りが非常に楽になりました。これは高齢者をはじめ、多くの利用者にたいへん好評です。また、大きな窓から街並みがよく見えることや、冷房設備を完備したことなどにより、より快適で魅力ある交通機関となりました。定員は従来の車両より約2割増加し、混雑緩和にも役立っています。

既設線の機能向上では、道路の拡幅事業に併せて行う停留場のバリアフリー化のほか、老朽化したレールの更新に合わせ、従来型より重いレールへの改良を進めています。この改良した新しいレールはたわみが少ないため振動や騒音が少なく、乗り心地の向上につながっています。また、札幌駅前通の路線では、降雪時のスムーズな運行を確保するため、軌道敷内にロードヒーティングを導入しました。



整備概要図



整備区間拡大図



新型低床車両「ポラリス」の外観



道産木材を使った車両内部



停留場と新型低床車両乗車口の段差



## 市民に見守られ順調なスタート

### —— ループ化開業時と、その後の利用状況はいかがですか？

平成27年12月20日(日曜)の開業を前に、19日(土曜)に「西4丁目」停留場付近のスクランブル交差点で開業記念イベントを開催しましたが、多くの市電ファンや市民が詰めかけ、盛大なスタートを切りました。

利用者数等の正確な把握と詳細な分析はこれからですが、開業直後は利用者が1日あたり4,000人ほども増え、その後も平均8~10%の増加となり、現在まで順調な経過となっています。

これまでの利用者数は、昭和52年度に1日あたり約3万7,000人でしたが、その後地下鉄の開業などの影響から減少を続け、平成22年度には約2万人になっていました。こうした状況のなかで、ループ化を機に利用者が増加していることは、大きな成果につながっていると思います。

開業から3ヵ月後に行ったアンケートによると、「乗る回数が増えた」「ループ化で便利になった」との回答が多数を占めたほか、「何年も乗っていなかったが、懐かしくて久しぶりに乗った」「子どもと一緒に初めて乗った」といった声もありました。また、新停留場の「狸小路」から「すすきの」停留場間は休日の利用者が大幅に増え、通勤・通学

だけでなく、利用範囲が広がっていることが数字にも表れています。

### —— ループ化に伴って課題となったことはありましたか？

今回、札幌市で初めて「サイドリザベーション方式」を採用するにあたり、安全確保のためいくつかの呼びかけを行っています。

その一つが自転車に乗っている人への呼びかけです。まずは絶対に軌道敷内を走行しないことと、より安全に通行していただくため、歩道での押し歩きを推奨しています。また、自動車のドライバーに対しても、右折・左折の際は電車の走行を妨げないよう、軌道敷外での待機をお願いします。軌道敷へのはみ出し運転、軌道敷内での駐停車は禁止となっています。

こうした呼びかけとともに、軌道敷に「カラー舗装」を整備して目立つようにしたり、横断防止策を設置したり、警備員を配置して安全啓発を実施するなど、いろいろな安全対策を行っています。

また、これまで札幌駅前通の歩道沿いで行っていたタクシーの客待ちや、荷さばき時の駐車ができなくなるため、実証実験を行ったうえで、代替場所となるスペースを南2条・南3条通に設けました。



12月19日、スクランブル交差点での出発式。テープカットに秋元克広市長も参加



発売当日に3000セットを完売した「路面電車ループ化記念きっぷ」



「雪ミク電車2016」で実施したカフェ電車。市電沿線のカフェで人気のスイーツを提供



新型車両の記念乗車

## 今後の新たな活用に向けて

### ——地域との連携や、まちづくりへの活用についてお教えてください。

地域との連携、まちづくりの取り組みは、ループ化以前から続けており、そのなかでも特に多くの方にご参加いただいているのが、例年9月に開催している「市電フェスティバル」です。子どもから大人まで1万3,000人以上のお客様が来場し、電車事業所をメイン会場に、運転台の体験や記念撮影会、記念限定品や鉄道物品の販売など、多彩な催しを地域の方々と一緒につくっています。

こうした恒例イベントに加え、昨年度は沿線の「狸小路商店街」に加盟する80社以上がループ化開業にあわせて記念イベントを実施するなど、新たな連携も生まれました。また、沿線にある小学校へ札幌市の担当職員が「出前授業」にでかけ、路面電車について学んでもらうこともできました。未来の利用者である子どもたちに興味を持ってもらうきっかけになり、地域への愛着にもつながり、とてもよい機会となったと思います。



そのほか、貸し切り電車の利用は内容が多様になり、利用数も増加しています。去年はループ化を記念したライブや、案内人と沿線の歴史をめぐるツアーが企画されたほか、子育てサロンが行われるなど、いろいろな面で活用の幅が広がってきました。まちづくりへの活用は、今後も一層力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

### ——今後の展望をお聞かせください。

今後も安全で安心な路面電車の運行を確保するためには、施設や設備の計画的な更新と経営の健全化を図っていかねばなりません。また、今後も継続して事業を進めていくためには、他地域への延伸も含め、どのような方向に進むべきかを見極めて行きたいと考えており

ます。そのためには、まずは今回のループ化と新たな車両・設備の導入などによる効果と、それによる影響をしっかりと検証することが重要だと考えています。

同時に、路面電車が持っている魅力を、沿線の住民の方だけでなく、郊外にお住まいの方々や国内外の観光客に実感していただけるよう、目に見える形で積極的に発信していくこと、そのための取り組みを着実に積み重ねることが重要だと考えています。

現在は、6カ国語に対応した路面電車のパンフレットや、地下鉄・市電周辺の名所巡りマップを作成し、市内のホテルや公共施設で配布しています。

札幌のまちの魅力を高めるために、路面電車ができることはまだまだあると信じています。もし機会がありましたら、ぜひ乗ってみて、その楽しさを実感していただければ幸いです。



日本・中国・英・韓国・タイ語に対応した「札幌路面電車マップ」



地下鉄・市電周辺名所巡りマップ。市電周辺の歴史を巡るコースは、人物・くらし・建物・社寺の4つがあります。

※札幌市交通局のウェブサイト

<http://www.city.sapporo.jp/st/>からダウンロードできます。